



ベトナム・ミャンマー

視察ツアー

報告書



一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
アジアビジネス研究会
平成 25 年 11 月

【 目 次 】

| | |
|--------------------------------------------|----|
| I. 視察団メンバー | 1 |
| II. スケジュール | 1 |
| III. 視察報告 | 2 |
| [ベトナム] | |
| ● JETRO ホーチミン事務所訪問 | |
| ● Universal Technology Services Corp. 視察報告 | |
| ● CBS VIETNAM 視察報告 | |
| ● Individual Systems 視察報告 | |
| ● ベトナム国家大学ホーチミン市自然科学大学視察報告 | |
| [ミャンマー] | |
| ● JETRO ヤンゴン事務所訪問 | |
| ● Myanmar DCR 視察報告 | |
| ● KMD コンピュータ視察報告 | |
| ● WIN 日本語学校視察報告 | |
| < Myanmar ICT パーク > | |
| ● Ace Data Systems 視察報告 | |
| ● yoma Technologies 視察報告 | |
| IV. ベトナム・ミャンマー視察ツアーの総括 | 28 |
| V. 参加者の感想 | 29 |

I. 視察団メンバー

| | 氏名（敬称略） | 会社名 |
|-----|---------|------------------------------------------|
| 団長 | 竹原 司 | (株)デザイン・クリエイション |
| 団員 | 五十木 正 | (株)ワークスアプリケーションズ |
| 団員 | 田中 良 | (株)ミャンマーオブシェア開発コンサルティング ※ミャンマーコーディネータ |
| 団員 | 佐藤 浩二 | (株)オープンストリーム |
| 団員 | 三浦 友輝 | (株)オープンストリーム |
| 団員 | 佐藤 正人 | (株)ダイナックス |
| 団員 | 芳賀 紳 | (株)インフィニテック ※ベトナムのみ参加 |
| 事務局 | 原 洋一 | (一社) コンピュータソフトウェア協会 |
| | 高部 美紀子 | (一社) コンピュータソフトウェア協会 |
| | 熊井 大和 | (一社) コンピュータ教育振興協会 |

II. スケジュール

| 日付 | 訪問先等 | 備考 |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 11月2日 (土) | 成田出発 (17:25) ベトナム・ホーチミン到着 (22:05) | 時差 2 時間 |
| 11月3日 (日) | (終日) ホーチミン市内観光 統一会堂、サイゴン大聖堂、中央郵便局、 ベント市場、ティエンハウ廟(天后宮) 戦争証跡博物館、歴史博物館など | ホーチミン |
| 11月4日 (月) | (午前) JETRO ホーチミン事務所 訪問 Universal Technology Services 訪問 (午後) CBS VIETNAM 訪問 Individual Systems 訪問 ベトナム国家大学ホーチミン市自然科学大学 訪問 | ホーチミン |
| 11月5日 (火) | ホーチミン発 (11:40) ミャンマー/ヤンゴン着 (13:25) JETRO ヤンゴン事務所 訪問 (夕方) シュエタゴンパゴタ観光 | ホーチミン ヤンゴン |
| 11月6日 (水) | (午前) ミャンマーDCR 訪問 KMD コンピュータ 訪問 Win 日本語学校 訪問 (午後) ミャンマー ICT パーク内 ACE Data Systems 訪問 Yoma Technologies 訪問 (夕方) ジャンクションスクエア観光 ヤンゴン発 (22:10) | ヤンゴン |
| 11月7日 (木) | 成田着 (6:45) 解散 | 時差 2.5 時間 |

Ⅲ . 視 察 報 告

【 JETRO ホ ー チ ミ ン 事 務 所 訪 問 報 告 】

1. 日時：2013年11月4日（月）9：30～10：30
2. 住所：14th Floor, Sun Wah Tower, 115 Nguyen Hue Street, District 1,
Ho Chi Minh City, VIETNAM
3. URL：http://www.jetro.go.jp/jetro/overseas/vn_hochiminh/
4. 面会者：Director 大里 和彦氏
5. 訪問内容：①ベトナム国内現況紹介 / ②質疑応答
①ベトナム国内現況紹介

【全体】

都市としては、一番大きいのがホーチミン、二番目がハノイ、三番目がダナンとなっており、北海道から岡山くらいの距離感である。日系企業も三大都市に多い。ホーチミンが全国の消費の23%を占めており、南部（メコンデルタ）で51%となっているので、経済はホーチミン、政治はハノイと言える。

ベトナムの人口は、最近 9,000 万人達成、2020年後半には1億人を見込みであるホーチミン770万人、ハノイ720万人

一人当たり GDP（2007年）はホーチミン 2,249 ドル、ハノイ 2,043 ドル
リテイル売上（2011年）は、ホーチミン 220 億ドル、ハノイ 140 億ドル
となっている。

識字率は94.2%と周辺諸国と比べ高く、カンボジアは75%

大学卒業生数は年間40万人で大学進学率は18%～20%と段々上がっている。

【マクロ経済】

経済成長率5.03%と落ちているが、理由としてはインフレ率が2011年 18.13%と高くなってしまった。現在は対策を行い2012年は6.81%となっており、2013年後半から経済が立ち直っている。

【外国直接投資】

日本企業の新規投資は多い、55億ドルは、全世界の投資の51%となっている。

JETRO への日本人訪問者数は、2012年 3,500 人（全世界事務所で3位、1位はバンコク、2位はミャンマー、ハノイは6位）、2011年 3,000 人、2010年 2,000 人となっている。

ベトナムは台湾人が多く中華街は台湾人が、中国の投資はあまり多くない

【ベトナム投資のメリットと課題】

メリットは特に

- ・安い電力料金 1 キロ当たり 6 セント（政策的に下げている）

課題は特に

- ・ 中間マネジメント層の人材が薄く、取りにくい
若い人材が多いためワーカーレベルでは可能だが、優秀な人材の取り合いになっている

賃金上昇はベースアップ率（日系企業 300 社にアンケート） 18%

賄賂も残っている。

【ベトナムの人口構成（2011年と2030年予想比較）】

- ・ 30歳以下が半分を占めている。
- ・ ワーカーだと 150~180 ドル（最低賃金 113 ドルでは雇えない）
- ・ 大学卒業初任給は、 300~400 ドル
- ・ IT企業は、 500 ドル前後が平均値
オフショア開発が多く、スマホアプリが特に良く、上記の倍になる売り手市場とぶれが大きい
- ・ 在留邦人は南部でも 1 万人はいる、日本商工会 660 社、IT部会45社
- ・ 優遇税制は一般で 25% だが、 22%、 20% と今後下げる。
- ・ IT分野だと 10% の税率で 4 年免税 + 9 年半減で合計13年

【ベトナムIT産業概況 JETRO ハノイ資料より】

- ・ ICT 産業全体で年平均 20% 成長、ソフトウェア産業は年平均 25% 成長、デジタルコンテンツ産業は年平均 45% 成長
- ・ 2015年までに 150 億ドル、2020年までに 180 億ドル
- ・ ICT 産業全体で25万人就業、ここ数年ではソフトウェア産業 12% 増、デジタルコンテンツ産業（メディア関係、WEB 関係、ゲーム）は 25% 増
- ・ 携帯電話の契約数 1 億5000万台（ただし、一人数台持っている）
- ・ インターネット普及率 30%、2015年 50%、2020年 70% を目標としている
- ・ 中国からベトナムへのオフショアへのシフトしてきている

【IT 関連団体】

ベトナムソフトウェア・ITサービス協会（VINASA） 189 社

ホーチミンコンピューター協会（HCA） 300社弱

【IT 企業（オフショア開発）】

FPT Software 従業員 3500 名 売上 5200 万ドル

TMA Solutions 従業員 1000 名以上 売上 1000 万ドル超

CMC Software Solution 従業員 300 名 売上 800 万ドル

②質疑応答

Q、ベトナム国内の件費上昇について？

A、ベースアップは18%と最低賃金が毎年上げている。

2011年11月に上がって、2013年1月にも上がっている。

比較すると17.5%上昇、上がり率としては平均して15~18%程度

Q、外資系企業の進出が上がる理由となっているか？

A、スマホアプリで欧米が入ってきており、釣りあげているのは事実

Q、言語として英語と日本語はどうか？

A、大卒で英語は問題なく、日本語は難しい状況

ただ、日系企業は技術ある人にとって、日本語を教えることが多い

Q、日系企業は重要なポジションを与えないから日系企業離れがあるのか？

A、その傾向はある。日系企業は、部長職は日本人、ベトナム人は課長までと言うことが多い。

日系企業側も日本で技術を学んで、帰国後起業してしまうケースもある
なかなか技術のすべてを教えたがらないこともある。

Q、欧米企業では問題はないのか？

A、欧米は実力主義で上の仕事を与えるし、台湾企業でもその傾向がある。

Q、人材派遣、人材紹介会社が多く入っている？

A、人材派遣は今年6月労働法改正で、24業種でOKができたが政府にデポジットを支払うなどハードルが高い。一方人材紹介は、中間管理職が少ない、あるいは動くことも多いので、日系企業への紹介会社が市場としては良いと思っているはず。人材紹介では、ネット広告ナビゴスがベトナム国内では大手で、日本のエンジャパンが買収して今後行っていく。

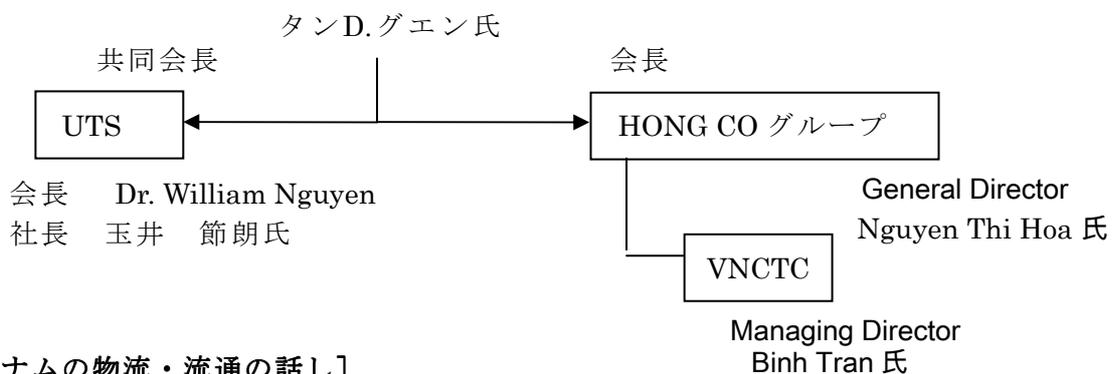
<http://www.navigosgroup.com/index.htm>



【 Universal Technology Services Corp. 視察報告 】

1. 日時：2013年11月4日（月）10：45～12：15
2. 住所：19-25 Nguyen Hue Street, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam
3. URL：http://uts.vn/index_jp.html
4. 面会者：会長 Dr. William Nguyen、社長 玉井 節朗氏
HONG CO General Director Nguyen Thi Hoa 氏
VNCTC Managing Director Binh Tran 氏
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答 / ③オフィス内見学

①企業紹介



【ベトナムの物流・流通の話】

HONG CO グループは、IT関連シスコシステムズ、HP、オラクルなどを扱っているディストリビュータで、VNCTCはHONG CO グループでテレコム関係を提供している会社。ベトナムでの顧客リストも持っているのでいろいろサポートが可能である。

Q. ベトナムでソフトを購入する場合はどうする？

A. 物流としては、ディストリビュータからとSIerからの2種類がある。
ソフトウェアの場合はメーカーとライセンス契約をして行われるなど

Q. もし日本企業がソフトウェアを売る場合はどうすればよいか？

A. ディストリビュータとの契約を行うことで販売が可能。
ベトナムに事務所がないと直接エンドユーザーに売ることができないと言う法律的がある。

UTS (Universal Technology Services Corp.)

会長 Dr. William Nguyen

社長 玉井 節朗氏

設立 2006年（今年6月から本格的にグローバル化を開始）

社員数 105名（2013年10月末現在）

【ビジョン】

信頼される技術とソフトウェアで長期的なパートナーシップを築けるグローバル企業になること

【ミッション】

世界の企業に最新の技術やソフトウェアサービスを提供するグローバルリーダーになること

【特徴】

アメリカ向けと日本向け／アジア向けに開発を受けていく、今まではグエン会長がハーバード大学出身ということで、アメリカからの開発を受けていたが、今後は拡大を計画、会長はベトナム語の検索エンジンを作って、現在 400 万ユニークユーザーがいる。会社はグローバル企業を目指しているので、アメリカ流を取り入れている。開発フロアでは土足禁止となっており、お昼には休養をとることを進めている。会社も一等地にあり、開発環境を重視している。

【強み】

人材力、開発力、経験力で、人材力はハーバード大学、スタンフォード大学、ベトナムでは工科大学とのつながりがあり、工科大では、研究室を持っているので、優れた人材を多数保有。開発力は、アメリカシリコンバレーからの情報力により、最新情報を持って行うことが可能である。経験力は、豊富な経験と最大限発揮できる組織を持っている。今後はベトナム人の人材育成にも力を注いでいく。

【開発分野、顧客等】

クラウド、モバイル、組み込み、WEB開発を行い、現在はシスコシステムズ、ネットギア、リングセントラル等を顧客としている。今後は日本企業、日系企業からの受注を受けての開発を行っていく。また、開発にプロセスとしては、オフショア開発とは違い、コンセプトだけで、話し合いをしながら設計していき、最終的に製品開発を行っていくやり方を実施していく。

【所感】

アメリカ帰国組の創業者による会社で、ハーバード博士課程出身のオーナーの人脈を生かし、最高レベルの人材を最高の環境に集めて、下流工程のオフショアではなく、最上流を含む高度なアジャイル開発を実現する体制を構築しつつある。世界から難度の高い開発を受注し、短期でこなす実力を売り物にする高収益会社を目指す戦略を取っていた。まったく新しい方向であるが、脱オフショアの典型と思えた。



【 CBS VIETNAM 視 察 報 告 】

1. 日時：2013年11月4日（月）13：50～14：50
2. 住所：142 - 144 Phan Xích Long, P.7, Quận Phú Nhuận, Ho Chi Minh City, Vietnam
3. URL：<http://www.kk-cbs.co.jp/cbs/>
4. 面会者：CBS グループCEO 井上学氏
CBS Vietnam Director Hoang Ngoc Lan 氏
CBS Japan 社長 中井 政昭氏
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答 / ③オフィス内見学

①企業紹介

CBSグループ

CEO：井上 学氏

設立：平成 16 年 8 月

本社：大阪

[業務内容]

1. CADによる建設図面・機械図面の設計作図・図面等の電子化支援
2. 技術コンサルティング
3. 機械・電気・建設のベトナム人エンジニア派遣
4. 機材のレンタル会社

CBS Vietnam Co.,Ltd

Director：Hoang Ngoc Lan 氏

設立：平成 17 年 11 月

社員数：60 名

※ホーチミン工科大学と共同で、「建築教育センター」を設立

[業務内容]

日本企業を顧客に建築・建物設計 / 機械設計 / トレーニング・コンサルタント

[特徴]

グループ CEO の井上氏は、ベトナムへのボランティアとして渡り、ベトナム政府や大学との強力なパイプを持っている。建設機材レンタル・販売の親会社で行っていた図面を書く仕事を別会社にし、コスト（人件費）を抑えるためにベトナムで行っていたところ、現在は、橋梁や機械図面が増えてきている。ベトナムで CAD 設計の専門学校を設立し、人材育成にも力を注いでいる。また、日本の中小建築業のベトナム進出のお手伝いも行っている。

②質疑応答

Q. なぜベトナムになのか？

A. 12年前に孤児たちの職業訓練センターをボランティアで行ってきた。いろいろな経緯によりベトナムでビジネスを行っている。

Q. 専門学校を設立したのはどうしてか？

A. ベトナムでは建築は5年やると経験年数により決まるが、大学との連携で建築家アシスタントの資格証明が取れるようになる。

Q. ベトナム社員は設計者が多いのですか？

A. 日本の大企業の子会社が設計を行い、CBSではモディファイの設計を行う。

日本企業とは直接やり取りを行うが、日本語のできる通訳（10名1名程度）を交えてグループチャットで仕事を行う。グループチャットでやることで、状況が共有化できる。あたかも自社のベトナム社員。

Q. 高学歴なので離職率はどうか？

A. 高学歴の社員が多いが、離職率は極めて低い

Q. 給与は多い方ですか？

A. 日系企業に比べると低い

Q. 初任給はどのくらいですか？

A. 大学卒業で1カ月300ドル、専門学校卒業で1カ月200ドル

Q. 当初は日本の仕事をとっていたが、ベトナム国内企業の仕事が取れるようになった？

A. ベトナム国内での仕事もとれるようになっていきたいと思う。

今は日本の会社が仕事をとれるようにして、設計を自分たちが行うが、ベトナム国内企業の仕事ができるように認可申請中

[所感]

IT企業ではないが、日本からプラント、建築などの設計のオフショアを受ける会社で、50名の優秀な設計者を擁し、日本語をマスターして、ベトナム人だけで、直接、日本の発注者とネット会議を行い、要望通りの設計図を描き上げるというサービスを高いレベルでこなしていた。オーナーは日本人で地元でのボランティア活動でも有名で、ベトナム社会からも高い信頼を得ており、地元で根を張った成功ビジネスの典型と感じられた。



【 Individual Systems 視察報告 】

1. 日時：2013年11月4日（月）15：10～16：10
2. 住所：VINA GIAY PLAZA, 180-182 Ly Chinh Thang, Dist. 3, Ho Chi Minh City, Vietnam
3. URL：<http://www.indivisys.jp/>
4. 面会者：取締役 今村 貴行氏、Manager 市川 太郎氏
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答 / ③オフィス内見学

①企業紹介

Individual Systems Co., Ltd.

代表取締役 浅井 崇氏

設立 2001年12月（2004年5月に外資100%で再設立）

社員数：212名（2013年11月現在）

〔業務内容〕

- ・日本からのオフショア開発・保守
- ・ベトナム国内にある日系企業向けSI
- ・ASEAN 域内からのオフショア開発・保守
- ・パッケージソフト開発・販売
- ・iOSの開発事業

〔ビジョン〕

1. 日本のソフトウェア産業を、ベトナムとの協業のもと変革する
2. 世界に通用する競争力を持ち、ベトナムのIT立国化に寄与する

〔ベトナム国内販売パッケージソフト〕

インディビ業務管理システムシリーズ

- －ベトナムの法令に準拠した日系企業様向け人事給与システム
- －ベトナム日系企業様をモデルに開発した生産管理システム
- －管理・分析レポートも充実コンパクトな販売管理システム
- －各種申請・承認をWebブラウザ上から簡単に実行できるシステム

〔特徴〕

オフショア開発に加え、自社パッケージソフトも売っており、ホーチミンで70から80社利用している。現在、クラウド化も検討している。ベトナムでは日系企業は2000社弱あるので、さらにそこに直販していく（流通は通していない）

オフショア開発は、中国からの変更が多い状況で、現在は下流工程が中心となっている。今後は基本設計から行いたい。現時点は、ベトナム人だけで行うには、まだ難しい状況。

②質疑応答

Q. ベトナムで人材をとるためには、どのようにしているのか？

A. 日本とのコミュニケーションをとるためには、日本語のわかるエンジニアを取りたいが、とても枯渇している。人材の流動化もしている。

現在、社内で英語によるオフショアに切り替えることも検討しているが、中国のオフショアは日本語で行っているの、日本企業のリクエストがどうしても日本語でのコミュニケーションが必要。

Q. ベトナムのITエンジニアは英語には問題なのか？

A. ITエンジニアは大学のIT学部を出ないといけない。大学では、英語の一定レベルが来ないといけないので、基本的には英語には問題がない。

Q. 現在のお客様は日系企業のみなのか？

A. オフショアは日系企業のみで、現在は、日本語のできる人が、コミュニケーターが担当している。人材としても言語よりも技術が優先なので、必ずしも日本語ができるとは限らない。

Q. 保守での人材が現在40名いるが、全員日本語ができるのか？

A. 40名中、日本語ができるのは22名となっている。

Q. ベトナムでの資金を借りるのは難しいのか？

A. そうですね！日本で借りて仕事を発注することにより、ベトナムは運営している。また、両国の会社はともに本社でパートナー関係になっている。

Q. 販売しているパッケージソフトについては、直接ベトナム国内で販売（受注）しているのか？

A. パッケージソフトは、ベトナム国内で受注している。

Q. 日本で売っているパッケージソフトを売ることは可能か？

A. 弊社が担当することも可能。

ただ、日系企業もベトナムに進出する企業も多いが、撤退も多い。

Q. パッケージソフトはベトナム国内向けにベトナムで作ったのか？

A. そうです。日系企業が進出する場合でも、中小企業はそんなに高い物は使えないので、機能を必要最低限にして、価格を安くしている。

1つのシステムを100万円で販売している。それでも高いと言われている。

[所感]

日系のIT系最大手企業。ここでは、200名の現地ソフト開発者を擁し、日本からのオフショア開発に加え、アセアンの地元企業向けに、現地仕様のパッケージソフトを開発し、現地向けの価格で販売するという現地化戦略に将来の活路を見出そうとしているのが印象的だった。ベトナムの人件費上昇率は、年間18%に達し、オフショア開発だけでは、いずれ、中国と同様にアドバンテージが失われるからである。



【ベトナム国家大学ホーチミン市自然科学大学 視察報告】

1. 日時：2013年11月4日（月）16：30～17：30
2. 住所：227 Nguyen Van Cu Street, District 5 Ho Chi Minh City, Vietnam
3. URL：<http://en.vnuhcm.edu.vn/> ベトナム国家大学
<http://www.hcmus.edu.vn/en/> University of Science
http://www.jasso.go.jp/study_a/documents/vietnam7_2.pdf
4. 面会者：Ph.D Nguyen Dinh Thuc 氏
5. 訪問内容：①大学紹介 / ②質疑応答

① 学紹介

ベトナム国家大学ホーチミン市自然科学大学は、1956年サイゴン大学の理科学部として設置され、1977年ホーチミン市大学（理科学部）として併合。1996年ホーチミン市国家大学の創設時その傘下に加わり、2000年ベトナム国家大学ホーチミン市（VNU HCMC）再編に伴い国家大学を構成。

University of Scienceには、ITと数学の学部があります。IT学部には Computer Science、Information Systems、Knowledge Engineering、Software Engineering、Computer Networks & Telecommunication、Computer Vision & Robotics と6つの学科があります。スタッフは現在、179名で8000名の生徒がいます。

毎年800人が試験を受けて入学してくる400人は短期大学に行き、そのうち18%はさらに外国に勉強に行くこともある。IT学部には日本語学科などはないので、日系企業に行ってから勉強することになる。学費は年間300ドルから400ドル。大学を卒業するだけで、現在は仕事がある。

② 質疑応答

- Q. 現在8000人の生徒で毎年800人が試験を受けて入学となると合わないが？
- A. 試験を受けるのは800人だが、他の大学から無試験で入ってくることもある。
- Q. 大学卒業後はどのような会社に行きますか？例えばMS、IBMとか？
- A. 優秀な学生は外国に留学と言うこともあるし、MS、IBM、グーグルなどに行くこともある。
- Q. 学生は日本で働くこと意思はあると思うか？（日本語ができなくても英語でも良い）
- A. 2ヶ月くらいかかるが、行くことは可能です。ただ、学校の知識だけでは足りないと思うので入社する前に足りないところを補う必要があると思う。
- Q. 具体的に先生の生徒で日本企業に入っている生徒はいますか？
- A. 実際にいます。

Q. 日本に働くときのケースはどのようなものですか？

A. 2つある、日本企業の担当者が直接学校にコンタクトしてくるケース

ベトナム国内にある日系企業に入り、その後日本に行くケース

Q. 先生に今回お会いしたので、直接にお願いすることは可能か？

A. 学生と直接コンタクトがとれるようにして本人との話し合いで決めることになる。

Q. アメリカ企業などに年俸10万ドルで入社するというケースはありますか？

A. FBとか Yahoo とかで12万ドルから15万ドルは実際にある

Q. ハノイ工科大学と比べてこちらの大学のアドバンテージは何か？

A. AUN-QA(Quality Assurance for ASEAN University Network) を2009年に取っている

[所感]

地元のホーチミン自然科学大学には、人口9000万人のベトナム全土から最優秀の人材が集まり、Googleやマイクロソフトが年俸1500万円レベルで採用していくというから、世界トップクラスの人材の獲得は充分可能だ。





統一会堂前：まだ旅の始まりで元気いっぱいです。



サイゴン大聖堂前でガイドに説明を受け横にある中央郵便局へ



ベントアン市場でお買物
店員のしつこさに少々減入る



レストラン「インドシナ」
ベトナム料理を堪能（昼）



ティエンハウ廟
（天后宮）
海の神様らしい



戦争証跡博物館で米軍のやってきたことを見てきました。アメリカ人もびっくり！



歴史博物館でベトナムの戦いと多民族国家の歴史を拝見



レストラン
「MAXIMS NAM AN」
で懇親会

【 JETRO ヤンゴン事務所訪問報告 】

1. 日時：2013年11月5日（火）14：30～15：30

2. 住所：Sedona Hotel Business Suites #04-02,

No.1 Kaba Aye Pagoda Road, Yankin Township, Yangon, Myanmar

3. URL：http://www.jetro.go.jp/jetro/overseas/mm_yangon/

4. 面会者：Director クン トゥーレイン氏

5. 訪問内容：①ミャンマー国内現況紹介 / ②質疑応答

①ミャンマー国内現況紹介

〔全体〕

主要都市としては、ヤンゴン管区、マンダレー管区となる。また首都はネーピードーである。

ミャンマーの人口は、2011年現在6000万人だが、国勢調査は1983年以来実施していないので、今後実施をしていく。ヤンゴン管区は700万人でいずれは1000万人になると言われ、そのために都市開発等を行っているマンダレー管区は840万人である。

1ドル＝975チャットで比較的安定している。IT人材としてはヤンゴンコンピュータ大学で、毎年1000人ぐらい卒業しているが、文字による教育、暗記型教育であり、実機を使つての教育は行っていないので、日系企業も入社後の教育を重要視している。

一人当たりGDP（2012年）は835ドル

経済成長率（2012年）は6.0%となっている。

いずれにしてもIT分野はヤンゴン管区とマンダレー管区が中心になる。

企業進出において、どの地域に進出するかは多民族でない地域、多宗教でない地域を選ぶ傾向がある。

識字率は90%と高く、大学の進学率は都会では高く、田舎はそうでもない。

大学卒業後は優秀な人材はシンガポールへ行ってしまふ。

〔政治状況〕

2011年に民間移管となり、2015年の総選挙に注目している。スーチー氏の党が伸びていこうと言われていた。次期大統領については現大統領のテインセイン氏、議長トラウシュエマン氏、スーチー氏の動きがある。ただし、スーチーさんが大統領になるには憲法改正が必要である。

日本の経産省にあたる省は、商業省であり、U Win Myint氏（元ミャンマー商工会議所連盟会頭）である。

〔経済状況〕

ミャンマーの指標としては油とお米が上がると暴騰が起きると言われている。11月1日に電気料金の値上げを政府が発表し、市民は各種値上がるのではないかと懸念している。製造業、貿易（輸出入）、縫製産業が主となっている欧米からの経済制裁も解除してきているので縫製産業は伸びてきている。

ただ、工場における労働争議が頻発している。背景は国家公務員の給与をあげたことで、従業員たちもあげろと言っている。製造業などでもストライキが起きている、今回は労働環境の改善が多くなっている。進出リスクとして停電は当たり前だが、労働争議も言えるので気をつけなければならない。国民性としては日系企業にヒヤリングをしていると問題はないと言っている。

〔外国直接投資〕

2012年までの外国直接投資額としては過去 421 億ドルとなっており、日本は11位で36件、2億8千万ドルとなっており、1位は中国で49件 144 億ドルとなっている。ただし、中国は金額が大きい件数は減ってきているので、今後の推移としては少なくなっていく。中国との紛争と言うよりは反中国感情があるため、新たなものに対しては他国にしてしまう傾向にある。韓国も昔は反韓だったが、今は少し変わってきている、その理由としては韓国ドラマが入ってきているからと推測している。そういう意味では、文化は韓国にあこがれ、技術は日本にあこがれる傾向ではないか。

〔（新）外国投資法〕

外国投資法は昨年の秋に制定した。これにより、通常会社法ではできない海外送金も認められ、法人税率が 25% で 5 年間の免税措置が受けられる。ただし、海外送金は MIC 委員長の承認を得る必要があり、大変だが会社法と比べると全くできないというわけではない。他の特徴としても土地利用は、国有地及び国民が使用権を持つ土地が利用可能となり、100%独資による投資が可能で、合弁による投資も 35% 以下でも可能となっている。

〔ヤンゴン日本商工会議所（JCCY）〕

会員数は2012年度85社、現在は 127 社が加盟。毎月 6, 7 社が加盟今年度は 150 社いくのではないかと伸びているのは流通・サービス部会で、コンサルティング、法律事務所、会計事務所が登録している。次が建設部会。逆に伸び悩んでいるのは貿易部会、工業部会となっている。

〔IT関連団体〕

- ミャンマー商工会議所連盟（日本の経団連にあたる）
- － Myanmar Computer Industry Association（関連産業団体）
- ヤンゴン日本商工会議所（現在IT部会は存在しない）

〔アジアにおけるポスト中国・ベトナムの候補国比較〕

縫製はバングラディッシュがトップだが、ミャンマーのインフラ、雇用リスクが問題なくなることを想定して、先に手を付けておくと将来のメリットが得られるのではないかと多く言われている。

賃金については、縫製は 60—80 ドルだが、IT人材の初任給は 150 ドルくらい IT人材の憧れはシンガポールに勉強や仕事で行くケースがあるが、成功するのは難しい。日本企業では日本に派遣させ、勉強をしてから戻すとかをしていくことでマネージャーを育てていく工夫をすべきである。そのあたりが今後の課題と言える。

②質疑応答

Q. ミャンマー国内企業は財閥を占めている？

A. すべてではない。パートナーを組む時には気を付ける必要がある。

財閥（政商）は制裁リストに載っている場合もあるので、ビジネスとする上での注意点です。

Q. 大学卒業した人をとるためにはどうすればよいか？

A. 大学に直接コンタクトとった方が良い。例えば、寄付講座をするとか

Q. 優秀な学生は卒業後どこに行くのか？

裕福な家庭はアメリカに、身近なところでシンガポール。理由としては英語ができる等。

逆にアメリカから戻ってきているケースが多い、今成功している人は5年前に帰ってきている人が、その時点では難しい状況だったが今は成功している。

Q. ヤンゴン大学は今は変わってきている？

A. 現在は単科大学となり、法学を残して郊外に大学が移転している。法学はヤンゴンが中心と言うことで残している。

学生の多くは通信教育を選ぶようになっている。

ただし、採用側としては通信教育と通学だと通学の方が郊外に頑張っているということで評価されているケースもある。



【 Myanmar DCR 視 察 報 告 】

1. 日時：2013年11月6日（水）8：00～9：30
2. 住所：No.608, Bosoonpat Condo 11F, Corner of Merchant Road & Bosoonpat Street,
Merchant Road, Pabedan Township, Yangon, Myanmar
3. URL：<http://www.myanmardcr.com/>
4. 面会者：General Manager 小林 政彦氏
5. 訪問内容：①朝礼参加 / ②企業紹介 / ③質疑応答 / ④オフィス内見学

①朝礼参加

ほぼ毎日実施されている朝礼に参加、すべて日本語で行われ、自分の決意や仕事への取り組み方などを皆の前で発表する。参加者は女性が多く移転したばかりのオフィスは、とても綺麗な環境であった。以前のオフィスはボロボロだったと小林氏は言う。なぜ、日本語で朝礼を実施しているかは、MDCRは日本企業からのオフショア開発を受ける上で、ほぼ全員が日本語によるコミュニケーションを行っている。そこで社内の公用語を日本語にし、さらに自分自身の目標等を発表させることで、本人の啓発を促している。

②企業紹介

【会社概要】

事業内容：グローバルデリバリー（オフショア開発）、日本派遣、Web サイト構築等

設立：2008年7月14日

資本金：56,000US\$（100%日本資本）

社員数：204名

理念：「ミャンマー・日本、双方の社会に貢献すること」

DCR グループの一員としてスキル・コンピテンシーの向上を行い、IT分野を含めた市場の変化に積極的に対応することにより、お客様の成功（業績／利益／満足度の向上）を通じて、ミャンマー・日本、双方の社会に貢献する。

親会社：株式会社第一コンピューターリソース（DCR）

管理職：日本人スタッフは5名（社長、GM、他）でミャンマー人スタッフ（200名）中 マネージャーは5名

特徴：1、優秀な人事の採用（トップレベルの大学・大学院生の採用）

2、入社前からIT技術・日本語等の人材育成

3、ラボラトリ方式による開発品質の向上

4、社内公用語はすべて日本語

5、DCR グループとのシナジー効果、商流の日本側での完結

日本語スキルは、新入社員を除くと7割がN1、N2資格者と高い。

※N1資格者（新聞の論説・評論等の文章の構成や内容を理解できる）

N2資格者（一般的な話題の流れや表現意図を理解できる）

社員は大学新卒者を雇用、基本的には途中入社は雇わないとのこと

実績：金融業務、販売業務、生産管理、会計業務などの基本設計から統合テスト

③質疑応答

Q. 女性が多いようですがどのくらいいますか？それはなぜ？

A. 女性が9割で、成績順に取ると結果的にそうなる。優秀な人材は、男性は海外に行き女性は国内に残るので、応募者を上位からとると女性が多くなる。

Q. 人材育成に力を阻んでいるようですが、具体的にはどのように

A. 人材育成を投資と捉えて、2年半から3年は投資をしている。基本新卒で雇う時には日本語はできないので、すべて会社が出して日本語教育をさせている。

新入社員は日中仕事中に学校に行くケースが多いが、業務につきだすとおのずと土日に通うようになる。

Q. 新卒を採るときにはどのようにしていますか？

A. IT系のジャーナルに広告を出すと応募がすごく来る1000名くらい来るともヤンゴンに優秀な人材が集まってくる

入社試験はDCR独自の入社試験をミャンマー語に翻訳して受けてもらう。

Q. 結婚して辞めると言うことはないのか？

A. ミャンマーの女性は結婚では辞めない。子供を産んでも3カ月で復帰する、ミャンマーでは晩婚化している

[所感]

100%日本からのオフショア開発を行う会社で、200名の開発者で、日本の親会社からの発注される開発を引き受ける。開発者はほとんど女性である。日本語は、採用後に会社の負担で教える。人件費は、中国の5分の1程度。しかし、教育コストの負担はかなり大きく、また、ヤンゴンは、極端は不動産バブルの様相で、ヤンゴン中心部の不動産価格は、すでに東京と大差のないレベルに近づきつつある。ミャンマー語は日本語と文法が同じであるため、日本語習得の期間は短く、そのレベルは高いが、人件費以外のコストにどう対応するかが、オフショアとしての課題と感じた。



【 KMD コンピュータ 視 察 報 告 】

1. 日時：2013年11月6日（水）10：00～11：00
2. 住所：174-182, Pandason Road(Middle Block) Kyauktada Township, Yangon, Myanmar
3. URL：<http://www.kmd.com.sg/view/index.php>
4. 面会者：Director Bo Bo Lwin氏、Manager Aye Wah Wah Htun氏
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答 / ③オフィス内見学

①企業紹介

【グループ会社概要】

設立：1986年

★コンピュータトレーニングセンターとして設立

創設者：Thung Tin氏（前会長兼CEO）

Tyn Tyn Aye氏（社長兼MD）

CEO：Ronald Aung Moe Shwe氏

社員数：877名（2013年8月現在）

ミッション：“Developing People and the Country with IT”

★ISO9001取得企業

事業内容：PC／モバイルショップ、流通、ソフトウェア開発、教育サービス、
SI&ITソリューション

取引先：UN、EU、Pact Myanmar、MDCR、Save the Children、Park Royal Hotel Summit
Parkview Hotel、Bahosi Hospital、JICA、JETRO & GIC、Ministry Department

KMD Sales & Service：PC、サーバ等の販売店

ヤンゴン4店、マンダレー1店、ネーピードー1店、シンガポール1

KMD Mobile：モバイルショップ

ヤンゴン6店、マンダレー3店、ネーピードー2点、FC49店

他DCD(Direct Channel Distribution)／MRS(Myanmar Reliable Sources)等の別ブランド
のICT、PCレンタル等の企業あり

KMD Education Service：ICT／ビジネス&マネジメント

アプリケーションコース：生徒数31,269名（2012年）

ソフトウェアエンジニアリング：生徒数1,249名（2012年）

ネットワークエンジニアリング：生徒数4,447名（2012年）

IT学位：生徒数704名（2012年）

合計：生徒数37,669名（2012年）

他、UK大学等と連携し教育、学位提供

財団法人国際情報化協力センター(CICC)13人、海外技術者研修協会(AOTS)28人

【KMD資料より】

ミャンマーでのICT状況について

Total Telephones：4万人以上（全人口7%）

Target：3000万人（2015年全人口50%）

Mobile Data：2.75G、EDGE、3G（Pilot testing for 4G since 2012）

Fixed Line：600,000 Lines

PC 普及率 : 1% 未満

※PC市場（推定） 9,000 ～ 10,000 PC units / 月

PCユーザー : 500,000 推定 / サイバーカフェ 4000～4500（全国）

②質疑応答

Q. いくつか違うブランドでビジネスを行っているようですがどうしてか？

A. 似たサービスを行っているのでブランド分けしている。

フランチャイズによりミャンマー全体でビジネス展開もしている

Q. ミャンマーではWindows OSやパッケージソフトウェアを購入するということはあるのか？

A. ソフトウェアを買うというユーザーはそう多くない、海賊版がまだ出回っている

Q. ITトレーニングコースでどのくらいの費用がかかるのか？

A. 2カ月で40ドルくらいや3カ月で80～150ドルくらいの費用で、学位を取るには6000ドルくらいかかるので、裕福な人が通う。

[所感]

ミャンマー最大のIT企業。ハードウェアや携帯のショップを全土に展開し、IT専門学校も経営。インドを思わせる路上の露店のすぐ側に、アメリカンスタイルのモバイルショップが立ち並ぶ風景は、現代のアジアを象徴している。築80年以上の英国植民地時代に作られた古色蒼然たるビルの中に、すし詰め状態で机をならべて、プログラムの教育を受ける大勢の若者たちには、今の日本では失われたエネルギーが満ちていた。



【 WIN 日 本 語 学 校 視 察 報 告 】

1. 日時：2013年11月6日（水）11：20～12：20
2. 住所：278, Theinbyu Road, Botahtaung Township, Yangon, Myanmar
3. URL：<http://www.winjapan.com/>
4. 面会者：校長 中西修氏
5. 訪問内容：①授業見学 / ②学校紹介 / ③質疑応答

①授業見学

当日は、初級クラスの日本語講座で、たまたま停電になり、暑い中で授業を行っていたが、生徒の皆さんはとても真面目に受けていた。授業風景の写真を見てもわかるように、狭い教室にいっぱい生徒が勉強している。勉強の仕方としては、ビデオを見て先生が日本語で生徒に繰り返させる方法をとっている。初級ということもあり、内容はかなり簡単な内容であった。

②学校紹介

創立：1997年1月1日（民間の塾扱い）

現在の学生数：約400人（のべ約25000人）

年齢層：16歳から25歳（16歳は高校卒業くらい）

教師数：4名（うち日本人3名）

授業：初級、中級、準上級、上級、2級の漢字クラス、2級の読解、聴解など10クラス以上、読む、書く、聞く、話す4スキルを総合的に伸ばす教育。特に文法を重視。

授業料：3か月で60000チャット（1時間当たり60円程度）

★ここ数年の学生数推移だが、2012年は日本の地震と原発で減少した。

2010年は1724名

2011年は 914名

2012年は 584名

2013年は1319名（11/5 現在）

【中西校長資料より】

○ミャンマー人の90%くらいは蒙古斑がある。

○ミャンマー人の国民性、性格

★一般的に言われること

・なんでも遠慮するおくゆかしさ

・おっとり、ゆっくる、マイペース

・穏やかで勤勉

・信仰心が強い

・我慢強い

・純粹、純朴、素朴な人が多い

・時間はなかなか守れない

・女性に優秀な人が多い

★意外に思われること

- ・要求する時は過度に要求する（ローカルパートナーの場合に多い）
- ・チームワークに弱い（ねたみ、そねみ、嫉妬が多い。
道徳、倫理より情けを優先する傾向
- ・せっかちな面がある（特に運転時）
- ・普段はおとなしいが限度を超えると激こうする傾向あり
- ・プライドが高い（職業差別意識が強い）
- ・純粹、素朴な人が多い為、だます人が多い
- ・ビジネスライクに付き合うことができず、何でも親しいかどうかで決める。

③質疑応答

Q. 受講する目的は何ですか？

A. “なんとなく”と親が将来の為に勉強させる“が大半で、ダブルスクール/トリプルスクールは当たり前とのこと。（IT（コンピュータ）、大学、日本語）

Q. 日本に対するイメージはどうですか？

A. あこがれは日本で、シンガポールは行き安いが日本には行けないのが理由

Q. なぜ、日本語習得が速いのか？

A. ミャンマー語と日本語は語順が同じで、文法的にも似ている。また、ミャンマー語は日本語の発想方法とそっくりである。

【所感】

民間の塾という扱いなので、生徒の目的が“なんとなく”など切羽詰まった感じは無い分、日本に問題が起きると激減してしまう傾向にある。当然、日本語学校なので、日本語検定がアウトプットとしてあり、1級には1000時間、2級には800時間を要するとのこと。しかし、この日本語学校だけで、毎年1000人を超える（2006年は3000人超）生徒が通うことを考えるとミャンマーではビジネスとは別に日本語熱はあるのではないかと思う。



【 Ace Data Systems 視 察 報 告 】

1. 日時：2013年11月6日（水）14：30～15：30
2. 住所：Block 2, Room 2-4 MICT, Hlaing Campus, Hlaing Township, Yangon, Myanmar
3. URL：<http://www.acedatasystems.com/Default.aspx>
4. 面会者：Managing Director Zaw Moe Thant 氏
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答 / ③オフィス内見学

①企業紹介

ACE Data Systems Ltd

設立：1992年6月

CEO：U Thein Oo

Member, Pyithuhluttaw Legal and Special Issues Committee
Former President, Myanmar Computer Federation
Chairman, Myanmar ICT Development Cooperation
Chairman, Center of Excellence, UCSY & MCSY

子会社：4社

DIR-ACE Technology Co.,Ltd.（大和総研との合弁会社）

ACEPlus Solutions Ltd.

SunRoute Consulting Services Ltd.

ACE Global Trading Ltd.

従業員数：380名

200名 ACE Data Systems Ltd

120名 DIR-ACE Technology Co.,Ltd.

60名 ACEPlus Solutions Ltd.

7名 SunRoute Consulting Services Ltd.

2名 Ace Global Trading Ltd.

事業内容：

ACE Data Systems Ltd

ICTプロフェッショナルトレーニング、ソフトウェア開発
オフショア開発、システムインテグレーション、ICTサービス&サポート

DIR-ACE Technology Co.,Ltd.

クラウドコンピューティング
株式取引所のITサポート&セキュリティシステム
ICTサービス&サポート、日本とのオフショア開発

ACEPlus Solutions Ltd.

Eコマース、Mコマース、モバイル・アプリケーション開発
WEBアプリケーション開発、スマートカードシステム

SunRoute Consulting Services Ltd.

インダストリ & マーケット分析、ビジネス・デベロップメント
ビジネス・コンサルタンス業、ビジネス・プロセス支援

Ace Global Trading Ltd.

IT機器輸入、輸出入

【特徴】

ミャンマー国内で政府からのソフトウェア開発を請け負っている大手企業で、2013年4月には大和総研と合弁会社DIR-ACE Technology Ltd. (DAT)を設立。証券業務にかかわるシステム開発など継続的な開発委託を通じて、オフショア開発だけでなくミャンマー国内での開発も活発化していく。ミャンマー国内でデータセンターの稼働などを行い、ミャンマーに拠点を置く日本企業にも提供していく。

②質疑応答

Q オフショアの開発はどのように営業しているのか？

A 営業していない、大和総研からの紹介も含め、それほど数はない

Q 技術者はどのように雇っていますか？

A 下のレベルは大学卒業で雇うことはできるが、育てていかないといけない段階

Q 会長はヤンゴン大学、マンダレー大学のチェアマンだが、優秀な人材をとるのに有利に働いているのか？

A それはない、今までは、マンダレーはマンダレー、ヤンゴンはヤンゴンしか取れなかったが、今後はミャンマー全国からとれるので、今後は優秀な人材をとれるようになる。

Q 日本語のできる人材は多いのか？

A ACEはそんなでもないが、ACE-DATは40%が日本語できる。

Q 採用したあとは日本語をやらせるのか？

A 必ず日本語をやるわけではないが、興味がある場合は日本語の教育を行う。

Q 日本企業とは日本語で仕事を行うのか？

A 会話は日本語、設計とかは英語で行う。

Q 技術者の教育はどのようにしているのか？

A 会社として研修センターを持っていて独自に教育を行っている。

【所感】

ソフトウェア開発で、ミャンマー最大の企業。日本の修士課程を出たマネージャーが統括し、大学の跡地に作られたソフトウェアパークのビルに、優秀な人材を集積させ、高度なオフショア開発を行う。ここは、規模の優位性を追求しており、中国に代わる世界のオフショア基地を目指す明確な戦略だ。郊外にある広大な施設だが、ここでも、不動産価格は決して安くはないという。賃金上昇率は10%程度。



【 yoma Technologies 視 察 報 告 】

1. 日時：2013年11月6日（水）15：30～16：30
2. 住所：Block 2, MICT, Hlaing Campus, Hlaing Township, Yangon, Myanmar
3. URL：<http://www.yomatechnologies.com/index.htm>
4. 面会者：Consultant Sahin Ozturk 氏
5. 訪問内容：①企業紹介 / ②質疑応答 / ③オフィス内見学

①企業紹介

Yoma Technologies

設立：2006年10月

| | |
|-------------------------------|-----------------|
| Managing Director | Khin Toe Yin 氏 |
| Director (Technical) | Sahin Ozturk 氏 |
| Director(Solutions Architect) | Hein Wint Soe 氏 |

開発人員：15名

開発対象：

JAVA/JEE、Android、Windows 8 アプリ、.Net、PHP、JavaScript、HTML5

[親会社]

Winner Computer Group

設立：1998年3月

| | |
|-------------------|------------------|
| CEO | Aung Zaw Myint 氏 |
| Managing Director | Khin Toe Yin 氏 |
| Director | Su Su Pearl 氏 |

社員数：約 120 名

事業分野

- ・システムインテグレーション及びITコンサルティングサービス
- ・コンピュータ及び周辺機器の卸売及び小売販売
- ・ネットワーク及びイントラネットサービス
- ・カスタマイズ及びパッケージソフトウェアの開発
- ・IT教育及びトレーニング

[開発実績]

英国、オーストラリア、ミャンマー国内での Web アプリケーション多数

- ・人事関連サービス
- ・ホスピタリティ産業向け業務システム
- ・オンラインショッピングシステム
- ・オンライン学生宿泊施設管理システム
- ・Web コンテンツ管理システム（CMS）
- ・Web ベースのトラック配車管理システム
- ・Web ベースのヘルプデスクパッケージソリューション
- ・看護師のシフト管理アプリケーション

②質疑応答

Q. なぜ、英国などの顧客が多いのか？

A. Sahin 氏がもともと英国人なため仕事をとっている。今後日本は田中氏（MODC）が窓口になって実施していく

Q. 15名の社員ですべて開発を行っているのか？

A. 15名でそれぞれレベルがあるので役割分担して開発している。

Q. 開発にあたり要求の高いものに対してどのようにしているのか？

A. 一般的に要求を満たすのは難しいが、調査やコミュニケーションを図りながら提案している。Sahin 氏の能力が高く、かなりブリッジング、リサーチャーを行っている。

Q. 通常のアフショア開発とは少し違う部分の開発なのか？

A. Sahin 氏がいることで成り立っていることが多く、かなり上流工程から行うことができる。

【所感】

英国人技術者が経営する15名程度の開発会社。ここは、ベトナムのUTSと同様、英国から上流工程も含めたアジャイル開発を請け負う。Web系の業務システムを既存のオープンソースなどを組み合わせ、短期間で開発することを売り物に、実績を伸ばしている。ここもまさに、脱アフショアの典型といえる。このスタイルに惹かれて優秀な人材も集まってくるのだろう。少数精鋭の戦略が際立っていると感じた。





シュエタゴンパゴタ

みんなで感動と心洗われる時間を共有へ



入口はいるとガジュマルの木がお出迎え



時間を変えて集合写真3連発！
夕方と夕暮れと夜で美しさが変わります。



夜はカンドーギー湖船のレストラン
カラウェイ・パレスでショーを見ながらバイキング



2日目朝早いので
ダウンタウンを散策中



昼食は
Happy Café & noodles
でお食事



最後は帰国直前
ジャンクションスクエアで
時間潰し、
日本のショッピングセンター
と変わらんなあ～

IV . 総 括

2013年11月2日から6日にかけて、ベトナムとミャンマーのIT関連企業や大学を訪問し、「チャイナ+1」の中でも特に注目される両国のIT事情を視察した。

ベトナムでは、ホーチミン市（旧サイゴン）を訪問し、空路2時間半、ミャンマーではヤンゴンを訪れた。いずれの都市も首都ではないが、経済規模では国内最大を誇り、産業がもっとも集積し、人材のレベルも高いと思われる。

いずれの会社も力強く成長しており、各社各様に、自社の特性に合った戦略を採用している賜物と感じられた。

今回の訪問で感じたのは、なんと言っても、両国での対日感情の良さである。ベトナム人に聞くと、一番好きな国は、なんと、アメリカ。ベトナム戦争でのアメリカの犯罪行為を展示する博物館に多くのアメリカ人が訪れていたが、ベトナム人はアメリカが一番好きだと即座に答える。その次が日本だそうだ。ウンカのように、町に溢れるバイクは、95%日本製だとか。安くて品質の悪い中国製はほとんど売れないという。永年に渡って攻防を繰り返してきた隣国・中国に対する感情はやはり良くない。

一方、ミャンマー人の憧れの国はシンガポールだ。次が日本。軍事政権への制裁の影響で、欧米企業がほとんど参入していないことも背景にあるようだ。80%以上が仏教徒で、どういう訳か文法や言葉の発想方法が日本語と極めて近いということも影響している。ほとんどの子供に蒙古斑があるということから、遠い共通の祖先をもっていたことが伺われる。日本にとっては、最適なパートナーになる可能性を持った国だと感じた。

両国のIT分野との交流を今後とも継続・強化して、ビジネスの実績を拡大して行きたい。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
理事 アジアビジネス研究会 主査
㈱デザイン・クリエイション
竹原 司

VI . 参 加 者 の 感 想

開発途上国の安い労働コストをあてにしたオフショア開発は中国の例を見るまでもなく、経済が発展するにつれその期待効果は薄れてしまう。ベトナム・ミャンマーも時間がかかるが例外ではないと思う。

私は両国の優秀なIT人材がグローバルのステージで活躍し、その実力をさらに磨き発展させる機会を提供する価値があるか否かを確認に行った。人口がベトナムは9千万人、ミャンマーは6千万人で、その大きさから考えればいわゆるIQのトップ層は日本のそれと変わらないレベルだと思う。むしろ大学のIT学部はコンピュータ・サイエンスを英語で学習しているため、グローバルでも即戦力になる人材が育成されつつあると確信した。その証拠のひとつはホーチミン市自然科学大学のIT学部のThuc教授の「優秀な卒業生は米国の大学院に行くか、Googleやマイクロソフトに年俸1,000～1,500万円で就職する」との言葉にある。

長期的視点では我々日本企業がIT人材の日本語能力にこだわる限り、優秀なIT人材は英語圏に流れてしまうとの危機感が増すばかりである。日本語に依存しないモジュールや開発工程は彼らに英語で参画してもらう方法論の確立が急務と考える。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
理事 アジアビジネス研究会
㈱ワークスアプリケーションズ
五十木 正

~~~~~

今回、ミャンマーでのアレンジを担当させて頂きました。行き届かない点もあったかとは思いますが、大きなトラブルもなく無事に皆様をヤンゴンからお送りできて、まずは、ほっとしております。

ミャンマーへは仕事柄よく行きますが、今回ベトナムを視察出来、大変勉強になりました。インフラや環境が整っており、技術者のレベルの高さに頼もしさを感じる反面、人件費の高騰や優秀な人材の争奪戦といった面も良く耳にしました。こういったことは、頭では理解しているつもりでしたが、当事者の方から直接お話を伺うことで、よく理解することができました。ありがとうございました。

㈱ミャンマーオフショア開発コンサルティング  
田中 良

今回の視察は、開発アウトソーシング先としてベトナム・ミャンマーの企業の実態を見るのが目的でした。

結論として企業の成熟度や国民性など魅力を感じる反面、社会インフラ整備など少し長い目でみる必要もあるかと感じました。

従来、お付き合いのある中国、韓国、台湾企業と違い、日本人マネジメントが幹部である点で安心感が得られますが、それだけ現地社員のビジネススキルレベルを高める必要性も課題として感じられました。特にミャンマーにおいては、社会インフラや経済環境なども着手すべき問題が多く、将来の市場と捉え投資的に進出するという選択肢は考えられますが、直近のビジネスで効果を得るという点では難易度が高いと思っております。

いずれにしても、長期視点での労働力（開発体制）確保という点で、海外の労働力は不可欠な状況であるのは間違いありませんので、今回訪問した2国を含め、引き続き、検討を続けていきたい次第でございます。また、そういった状況を想定し、弊社内のグローバル化の意識づくりという点で、良い機会になりました。

株オープンストリーム  
佐藤 浩二

~~~~~

今回の視察に同伴させていただき、ベトナム・ミャンマー両国で強く感じたことは、活気と日本に対する国民感情の良さでした。

ベトナムではIT教育水準の高さと市民への情報通信端末の高い普及率から、IT産業が発展するための基盤が出来つつあるように感じました。しかし、すでに国内外企業からの技術者の囲い込みが進んでおり、優秀な技術者の確保が課題になるのではないかと感じています。

ミャンマーについては滞在中にも感じましたが電力・通信インフラ等の整備が未だ不十分であることが不安材料では有りますが、言語体系や国民性が日本に似ており、また想像していた以上に社会が安定していたことから、今後の発展を見守っていききたいと思っております。

今回の視察が初の海外渡航であったこともあり、東南アジアの実情を直接この目で確認出来たことで、より見識を広めることが出来たと感じております。

株オープンストリーム
三浦 友輝

正直、どんな状況かを見る程度の期待しかなくて参加しました。しかし、結果は想像以上でした。特にベトナムでは勢いと活力を強く感じました。また、ホテルや店や市場で働く人々、溢れるバイクや行き交う人達に、ズルさが感じられないのが、私にとってとても感動でした。勤勉な国民性、豊富な人材、人件費の安さ、ビジネスをする上で非常に魅力的な市場と感じました。

そこで、訪問した企業の中で、弊社の開発環境に近いところで早速接触を試みるつもりです。弊社ではここ数年、限られた資金と時間の中で、開発のスピードに課題を抱えています。その課題解決の大きな選択肢の一つとなるのではと期待しています。

今回の視察では、CSAJの皆さんをはじめ、同行させて頂いた企業の皆様とお話が出来たのも大きな成果でした。本当にお世話になり有難うございました。

行く前には家内から「皆さんに迷惑を掛けないように」と言われていたので、大きな問題もなく終わられたのでホットしています。

株式会社
ダイナックス
佐藤 正人

~~~~~

弊社参加の目的は、

①ベトナムという国の歴史的な背景を学ぶ。

②経済の現状把握と将来的な可能性について学ぶ。

ことでしたが、今回、①が2日目、②が3日目に体験（学習）できましたので大変満足しております。また、昼のみならず夜の部にて既にホーチミンに進出されておられる皆様の本音をお聞きでき、特にオフショア開発面だけではなく、地元根付いたビジネスを既に展開されている点、大変勉強になりました。

願わくは、ハノイもコースに入れて頂き、ビジネス面の相違などを体験できればと思いました。

最後に、ホーチミン市自然科学大学の訪問は、私にとって大変有意義でした。

ご対応頂いた、Ph.D Nguyen Dinh Thuc さんの真摯な質疑応答など、大学を見ると、その国の現状を知ることができます。

株式会社  
インフィニテック  
芳賀 紳

## 謝 辞

最後にベトナム・ミャンマー現地にてご対応していただきました JETRO、企業及び教育機関のご担当者の皆様、また、ご訪問にあたりコーディネート等をして頂きました玉井様、田中様、他関係者の皆様、大変お世話になったことをこの場を借りて御礼申し上げます。

今回のツアーが参加者あるいは会員にとって次なるビジネスの拡大につながることを祈念いたしますとともに、協会として実施できたことを大変感謝申し上げます。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会  
原 洋一